


分野	51	環境共生	通番 122
施策	512	生活環境の保全	
5年後の目標		大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	環境監視事業		会計	款	項	3,979,599	環境政策室
			一般	4	1		
事業の概要							
大気・水質・騒音・振動等の状況について調査・把握・評価を行い、生活環境保全のための監視・指導を行います。							


令和元年度の取組							
D (取組)	指標	小畑川、小泉川の透視度:30cm以上、BOD:2mg/ℓ以下、PH:6.5~8.5の維持状況				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	目標	実績	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持
	(小畑川(井ノ内橋))透視度:27cm BOD:1.1mg/ℓ PH:7.9(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.7(平成26年度)		(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm BOD:0.7mg/ℓ PH:8.0(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.8(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm以上 BOD:0.8mg/ℓ PH:8.0(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:8.2	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9	
	<ul style="list-style-type: none"> ・大気、水質、騒音、振動等の検査を実施しました。 ・大気調査は67か所で実施し、環境基準と比較しました。 ・地下水及び河川の15か所で水質の調査を実施し、環境基準と比較しました。指標となる小畑川、小泉川の状態については基準を超過することなく良好でした。 ・騒音調査では、環境騒音及び自動車騒音の調査を32か所で実施し、環境基準と比較しました。 ・それぞれの調査で得られた結果を国や京都府などに報告し、また関係部署とも情報共有に努めました。 					小畑川の様子 	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		小畑川・小泉川の主要河川水質指標	PH値(水素イオン濃度)6.5~8.5、BOD(生物化学的酸素要求量)2mg/ℓ以下のため水質は良好です。		209
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・大気調査は環境基準の超過はありませんでした。 ・地下水の水質調査では農業用井戸のうち1か所で環境基準の超過が認められましたが、地質といった自然由来の影響により超過することがあります。 ・河川調査のうち4か所で、水素イオン濃度・BOD(生物化学的酸素要求量)・浮遊物質・全亜鉛の項目で、一部の値が一時的に環境基準を超過していました。原因は水温の影響によるもの、または工場ならびに家庭からの排水等が一時的に大量に流れ込むことにより、環境基準を超過することがあります。 ・騒音調査では3か所で一時的に環境基準を超過していました。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・大気、水質、騒音など環境保全の分野は範囲が広いため、広い視野と専門的な知見が求められます。 ・環境基準を超過した項目がある地点について、生活環境への影響を考慮し経過観察が必要です。 				

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1:計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全意識向上のためにも関係する機関と協力しながら、市民、事業者等への啓発が必要です。そのため、今後も継続して生活環境保全のための監視・指導を行います。 ・専門的分野に対応するため、京都府等の研修により知見を深めるとともに、委託も活用しながら環境監視を行います。 ・大気、水質、騒音、振動等について環境基準をもとに適切に評価を行います。 ・環境基準を超過した項目については、京都府や関係部署にも報告を行い、情報共有をしながら引き続き監視を続けます。

分野	51	環境共生	通番 123
施策	512	生活環境の保全	
5年後の目標		大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	環境都市宣言啓発推進事業		会計	款	項	目	899,372	環境政策室
			一般	4	1	8		
事業の概要								
環境フェア等の実施を通じて、市民の環境活動への参加を促し、“環境の都”長岡京の実現のため取り組みを進めます。 また、西代里山公園を拠点に、環境活動団体がつどい、協働による環境まちづくりを進めます。								

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	環境フェアへの参加団体・企業数				単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	32	33	34	34	34
	31(平成26年度)	実績	34	34	35	35	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年11月16日に第11回環境フェアを開催し、約1,200人の来場がありました。 ・例年スペースがひっ迫しているという課題がありますが、できる限り調整を行い、参加団体・企業が環境のPRをしやすい状況となるよう努めました。 ・集客のための工夫として、飲食ブースを増やしつつも、環境活動とかけたPRをしてもらうことで、環境フェアのコンセプトを生かせるよう努めました。 				環境フェア 			

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・10回記念となった昨年と同程度の数の来場者があり、環境活動のPRの場として継続する中で、イベントとしての魅力が定着してきたものと考えます。 ・出展団体からは継続参加に前向きな意思表示をしていただいております、今後も目標数の団体・企業に参加いただけるものと考えます。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への取り組みをさらに広めるためには、当日の来場者以外へのアプローチも検討する必要があります。 ・環境フェアへの参加団体・企業数は既に目標数に達しているものの、スペースに限りがあり、特色ある活動を行う団体等を新たに紹介するといった柔軟な対応が困難な状況となっています。 		

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	2:進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・目標数には既に到達しており、環境イベントとしての認知度も一定上がってきたものと考えられます。今後は、「来場いただく」というイベントの手法に限定することなく、デジタル等を活用した啓発方法により、より広く環境都市宣言の趣旨を広めると共に、団体等の出展調整に柔軟に対応できるようにします。